

令和 4 年 6 月 19 日現在

機関番号：32697

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H00523

研究課題名(和文)パウッタコーシャの総括的研究—仏教用語の日英基準訳語集の次世代モデル構築に向けて

研究課題名(英文)A Comprehensive Research on the Bauddhakosa Project: Constructing a New Model for the Coming Generation

研究代表者

斉藤 明 (Saito, Akira)

国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授

研究者番号：80170489

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,300,000円

研究成果の概要(和文)：パウッタコーシャ(仏教用語の宝庫)の略称をもつ本プロジェクトは、XML (Extensible Markup Language「拡張可能なマーク付け言語」)を用いて関連資料を整理し、主要な仏教術語の定義的用例とその訳文を示しつつ、それら両者を根拠に当該用語に対する基準訳語を日本語と英語で提供することを目的とする。3年間に遂行されたこれらの研究成果は、Web媒体(http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~b_kosha/start_index.html)および紙媒体(和文2冊、英文1冊)で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本プロジェクトは、仏教思想の適確な理解を促進するために、多くの仏教用語について、実際の用例に即して今後の基準となるような現代語訳を日本語と英語で提供することを旨とした。このような作業は従来、研究者個人に頼ることが多かったが、本プロジェクトは、問題意識を共有する多くの関連研究者が加わり、テキストを厳密に解釈したうえで、いかなる明快な現代語訳を提示するかを相互に議論しながら着実に遂行した。主要な成果を日本語と英語で提供した点、ならびに紙媒体とともにWeb媒体によって、関心をい多くの人々にアクセス可能な形で公開したことにより、学術的な貢献はもとより、社会的な意義もきわめて大きいと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The objective of this research project is to take up for consideration the important scriptures and treatises that were originally composed in India, extract the definitions (or rules about their usage) of terms used in those works, and, based on them, establish standard translations in both Japanese and English. The research was executed by the effective use of XML (Extensible Markup Language).

The three years' term of this research from April 2018 to March 2022 has seen its outcome opened to public is three books as well as Website (http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~b_kosha/start_index.html).

研究分野：インド哲学仏教学

キーワード：仏教学 仏教用語 基準訳語 定義的用例 パウッタコーシャ

1. 研究開始当初の背景

仏教の経典や論書にはきわめて多くの専門用語が登場する。その中の多くは、サンスクリット語やパーリ語をふくむ中期インドアリアン語を基礎としながら他の諸言語への訳語、とくに漢訳語として定着した術語(「四聖諦」「五蘊(陰)」「無我」「縁起」等々)として、東アジアの仏教世界において広く受容され、今日にいたっている。また、これらの専門用語には、インド由来の概念を基礎としながらも、中国仏教の展開過程において成立した術語(「理事無礙」「十界互具」「草木成仏」等々)も少なくない。

いずれも、ゴータマ・ブッダはもとより、経律両典の伝承者や諸論師の研ぎ澄まされた知性や感性が反映したものといえるが、加えてまた、諸経論の翻訳者、さらにはまた思想史的な背景や学派の伝統をふまえながら、それぞれの思想を表明するに相応しい術語を創造した諸論師の苦勞も見のがせない。伝統的な術語の中には、「縁起」「無我(非我)」「中道」など、簡にして要を得た絶妙な訳語も多く、これらはすでに日本語として定着して久しい。

しかしながら、二千四百年を超える歴史を刻んできた仏教にとって、これら多くの術語の意味をそれぞれの文脈において再検証し、その上で、学界の衆知を結集して、これらの術語を現代語として蘇生させるという試みはきわめて重要な意味をもつ作業と考えられる。その目的は、インドにおいて成立した主要な経論を取りあげ、そこに採用される術語の定義的ないし主要な用例を抽出し、比較検討を加えるとともに、それらの用例を基礎に当該術語の基準的な訳語を提示し、Web 上での公開ならびに関連パネル等での意見交換をへて、基盤的ながらも信頼度の高い成果を公にすることにある。

現代日本語への翻訳に際しては、哲学・倫理学、中国哲学、宗教学等の隣接分野における専門用語の翻訳事情を勘案するとともに、日本語・日本文学等の関連分野における仏教用語の定着度を考慮することも欠かせない。とともにまた、その評価はさておき、現代における文化レベルでのグローバル化(越境、全球化)現象を直視するとき、国や民族の相違を超えて共通語としての機能を増大しつつある英語への翻訳もまた視野に入れ、国際的な学术交流のもと、積極的に対応する必要があると考えている。

インド学仏教学の分野は、従来から研究者間の国際交流は盛んであり、国際サンスクリット学会、国際仏教学会、国際チベット学会等の定期的な国際学会のほか、多くのワークショップも随時開催され、専門研究の深化と情報交換の機会提供という両面において多くの実績をあげている。これと並行してまた、各種の大蔵経を含むテキストデータベースや研究論文のデータベース化作業もかなり進展している。これに対して、内外の研究者にとって、緊急度がきわめて高いにもかかわらず、これまで手つかずに残されてきたのが主要な仏教用語に関する定義的あるいは主要な用例集の作成と、それを基礎にした、学界において一つの基準となる翻訳語の策定作業であった。本研究は、当該分野における国際的な学术交流の実績と、整備されつつあるテキストおよび文献データベースを活用しながら、この研究上の空白を埋めることを主眼としている。

2. 研究の目的

本研究は、およそ 400 の重要な仏教術語について、定義的あるいは主要な用例を根拠として提示しながら、現代語(日本語・英語)への基準的な訳語集を策定することを目的とする。本研究はとくに、英語による成果の刊行と、その Web 上での公開に重点を置く。国

際的な研究協力をも得ながら、正確で信頼度の高い基準訳語集を日本語と英語とで提供することは、当該分野における研究をさらに深化・発展させるとともに、教育上の画期的なツールにもなると考えられる。

3．研究の方法

サンスクリット語、チベット語訳、漢訳他、諸種の近代語資料を処理するため、柔軟な構造と汎用性にすぐれたコンピュータ言語として知られる XML (Extensible Markup Language 「拡張可能なマーク付け言語」) を用いて、およそ 400 の重要な仏教術語について、定義的あるいは主要な用例を根拠として提示しながら、現代語 (日本語・英語) への基準的な訳語集を策定する。

4．研究成果

本プロジェクトを遂行した 2019-2021 年度の 3 年間に、およそ 400 の仏教用語を対象として、Web (http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~b_kosha/start_index.html) 上での研究成果の公開ならびに 3 冊の紙媒体 (書籍、和文 1 冊、英文 2 冊) による成果刊行を実現した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 8件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 Akira Saito	4. 巻 29-1
2. 論文標題 Bhaviveka versus Candrakirti on the Logic of Mulamadhyamakakarika: Negation of Arising in the Four Possible Ways	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Buddhist Thought and Culture	6. 最初と最後の頁 11-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Akira Saito	4. 巻 2
2. 論文標題 Prapanca in the Mulamadhyamakakarika	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Akira Saito	4. 巻 1
2. 論文標題 Bhaviveka on Prajna	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Archaeologies of the Written: Indian, Tibetan, and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 517-525
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Akira Saito	4. 巻 1
2. 論文標題 Svakayadrsti Reconsidered	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Illuminating the Dharma: Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 337-346
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Akira Saito	4. 巻 118
2. 論文標題 Buddha-Nature or Buddha Within? Revisiting the Meaning of Tathagata-garbha	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acta Asiatica	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Masanori Shono	4. 巻 2
2. 論文標題 How to Become a Buddhist Monk: A Re-edition of One of the Gilgit Karmavacana Texts	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 57-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Akira Saito	4. 巻 121
2. 論文標題 Avalokitesvara in the Prajnaparamitahrdaya	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Acta Asiatica	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 横山剛	4. 巻 1
2. 論文標題 大乘仏教と有部教学の接点としての諸法の体系ー 『五蘊論』における世親の著作姿勢を例にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 對法雜誌	6. 最初と最後の頁 65-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内俊郎	4. 巻 2
2. 論文標題 ゴク・ロデンシェーラブ著『『般若心[経]の廣大注』の解説』校訂テキストと訳注	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of the International Institute for Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 107-138
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 下田正弘	4. 巻 68-2
2. 論文標題 「正典概念とインド仏教史」を再考する	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 1035-1043
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田尚敬	4. 巻 68-2
2. 論文標題 アポー八論の三段階発展説再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 947-953
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石田尚敬	4. 巻 69-2
2. 論文標題 シャーキャブッディのアポー八論の思想史的 position 付け	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 835-841
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本庸裕	4. 巻 11
2. 論文標題 『雑阿含経』「第56経」における有漏法と無漏法：説一切有部の解釈に着目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 多元文化	6. 最初と最後の頁 38-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本庸裕	4. 巻 39
2. 論文標題 ブツダの身体はなぜ有漏か：説一切有部による仏身有漏説論証の論理的分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東洋の思想と宗教	6. 最初と最後の頁 22-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 斎藤明
2. 発表標題 『般若心経』の小本と大本－説主「観自在」の意味づけをめぐる－
3. 学会等名 第64回国際東方学会議（ICES）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀内俊郎
2. 発表標題 『般若心経』に対するインド注釈文献の再検討
3. 学会等名 第64回国際東方学会議（ICES）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤明
2. 発表標題 觀世 (Iokavalokana) をめぐる3つの文脈 Avalokitesvara起源考
3. 学会等名 第70回日本印度学仏教学会学術大会 (於佛教大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横山剛
2. 発表標題 『中觀五蘊論』における心相應行法としての解脱について
3. 学会等名 第70回日本印度学仏教学会学術大会 (於佛教大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akira Saito
2. 発表標題 Logic or Illogic: Reconsidering Bhaviveka's Critique of Buddhapalita
3. 学会等名 5th International Workshop on Madhyamaka Studies (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 斎藤明
2. 発表標題 『如来蔵經』における複合語 tathagatagarbha (如来蔵) 解釈考
3. 学会等名 第71回日本印度学仏教学会学術大会 (於創価大学・オンライン)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤本庸裕
2. 発表標題 『阿毘達磨大毘婆沙論』における有漏法と無漏法：説一切有部の仏身有漏説から抽出されるその発展のモデル
3. 学会等名 早稲田大学東洋哲学会第38回大会（於早稲田大学）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤明
2. 発表標題 インド中観派と瑜伽行唯識派－その異同と背景を探る
3. 学会等名 第65回国際東方学会議（ICES・オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤明
2. 発表標題 中仮義解釈（三論）、三諦説（天台）、および三時教判（法相）に通底する中道至上観をめぐって
3. 学会等名 東方学会令和3年度秋季学術大会・シンポジウム「儒・道二教と仏教－三教交渉を再考する－」（オンライン）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 斎藤明
2. 発表標題 『唯識二十論』における唯識説再考
3. 学会等名 第72回日本印度学仏教学会学術大会（於大谷大学・オンライン）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 斎藤明、丸井浩、下田正弘、袁翰顕量、梶原三恵子、高橋晃一、加藤隆宏（共編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 514
3. 書名 仏典解題事典（第三版）	

1. 著者名 Miyazaki Izumi, Takeshi Yokoyama, Eisaku Okada, Yuki Takatsukasa, Genkai Hayashi, Keiki Nakayama, Tatsunori Takeda, and Kaworu Kominami (ed.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 The International Institute for Buddhist Studies	5. 総ページ数 163
3. 書名 The Seventy-five Elements (dharma) in the Madhyamakapancaskandhaka (Bauddhakosa VIII)	

1. 著者名 三代舞、藤本庸裕、児玉瑛子、道元大成、須藤龍真、野武美弥子、岩田孝（共編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山喜房佛書林	5. 総ページ数 441
3. 書名 『ニヤーヤビンドウ』における認識論・論理学の体系（パウッダコーシャIX）	

1. 著者名 斎藤明、清水尚史、生野昌範、横山剛、伊集院栞、王俊淇、楊潔、王楠、劉暢（共編著）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山喜房佛書林	5. 総ページ数 368
3. 書名 スティラマティ『五蘊論釈』における五位百法対応語（パウッダコーシャX）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

パウダコーシャ（仏教用語の現代基準訳語集および定義的用例集）
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~b_kosha/html/news_letter.html

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	榎本 文雄 (Enomoto Fumio) (70151991)	大阪大学・文学研究科・名誉教授 (14401)	
研究分担者	下田 正弘 (Shimoda Masahiro) (50272448)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授 (12601)	
研究分担者	室寺 義仁 (Muroji Yoshihito) (00190942)	滋賀医科大学・医学部・教授 (14202)	
研究分担者	高橋 晃一 (Takahashi Koichi) (70345239)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授 (12601)	
研究分担者	宮崎 泉 (Miyazaki Izumi) (40314166)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石田 尚敬 (Ishida Hisataka) (80712570)	愛知学院大学・文学部・准教授 (33902)	
研究分担者	佐久間 秀範 (Sakuma Hidenori) (90225839)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	山部 能宣 (Yamabe Nobuyoshi) (40222377)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究分担者	種村 隆元 (Tanemura Ryugen) (90401158)	大正大学・仏教学部・教授 (32635)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 64th International Conference of Eastern Studies (ICES), Symosium I	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------